



特定非営利活動法人
まちなか研究所

わcわc

2015年度 事業報告書

-第12期-

目次

事業一覧

ミッション

2015年度実績

Special Thanks

事業部総括

組織運営

体制

2015年度事業一覧

まちの担い手育成事業部

- ・ 沖縄地域社会ビジョン大学院2016
- ・ 講座「ファシリテーションを実践につなげる“1スキル深掘り”講座現場で使える、議論を深める「問いかけ」
- ・ 勉強会「社会と未来をデザインする「ソシオマネジメント」
- ・ 講師、ファシリテーター派遣
 - ・ 県内企業職員研修「参加の場づくりのためのファシリテーション基礎」講師
 - ・ 沖縄市子ども議会運営業務研修会 講師
 - ・ 介護支援専門員合同研修会 講師 等

くらしの環境づくり事業部

- ・ 糸満市市民活動支援センター委託事業
- ・ 県内自主避難者等への情報支援事業
- ・ 曙小学校区まちづくり協議会
- ・ 鉄軌道県民会議（全2回）
- ・ 南城市新庁舎協働スペースワークショップ（全5回）
- ・ 第8回マチグラー楽会の開催

調査・研究事業部

- ・ 地域円卓会議
 - ・ 那覇市久茂地小学校跡のまちづくりを考える（那覇市議員）
 - ・ 沖縄まちと子ども基金（児童養護施設、生活困窮者・不登校）
 - ・ 障がい者のITスキル獲得と企業連携を考える
 - ・ 教育の情報化をテーマとした円卓会議（沖縄県教育委員会）
 - ・ 県内の離島と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方
- ・ マチグラー闘争史（仮称）作成に向けての公設市場関係者インタビュー

総務

- ・ 経営状況改善に向けての取り組み

当会の使命と基本理念

【使 命】 2004年設立（2005年2月法人認証）

すべての人々が、自ら暮らすまちを

想い、考え、納得してつくっていけるような市民社会の実現

【合言葉】

みんなで「決めて」みんなが「つくる」そんな社会づくりのために、
まちわくは人と組織を「つなぎ」「話し合う」場と社会環境をつくります。

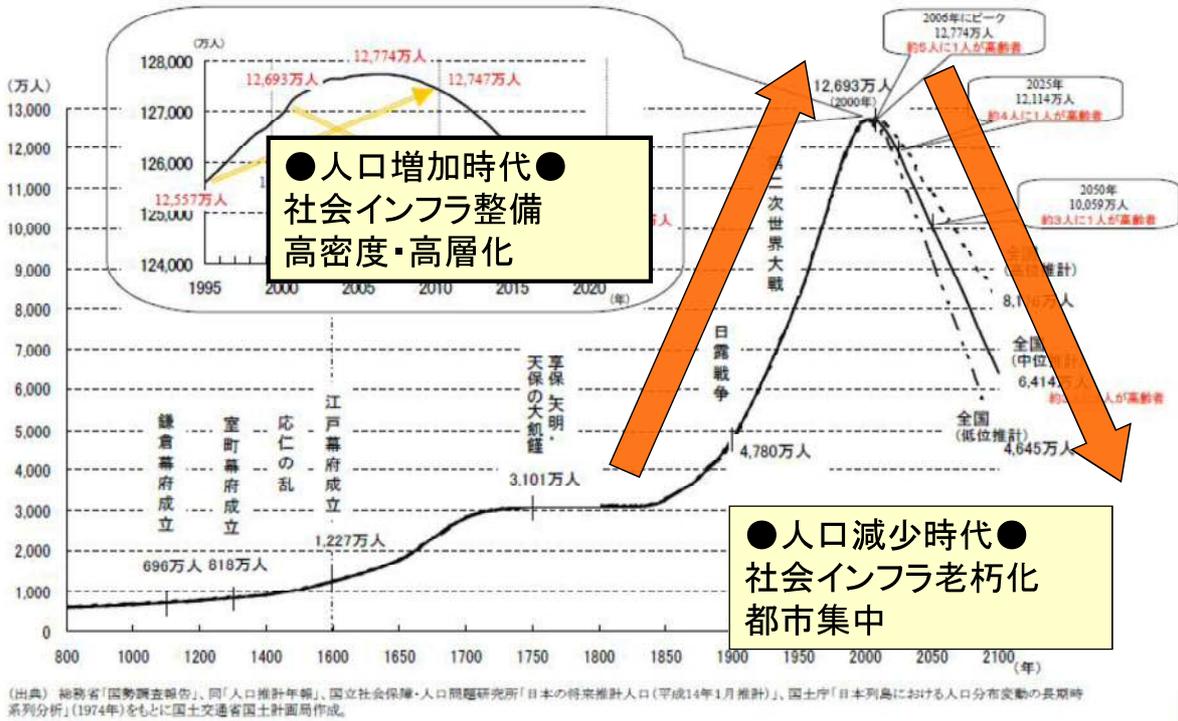
【基本理念】

○みんなで決めてみんながつくるまちづくりの活動と活動サポート

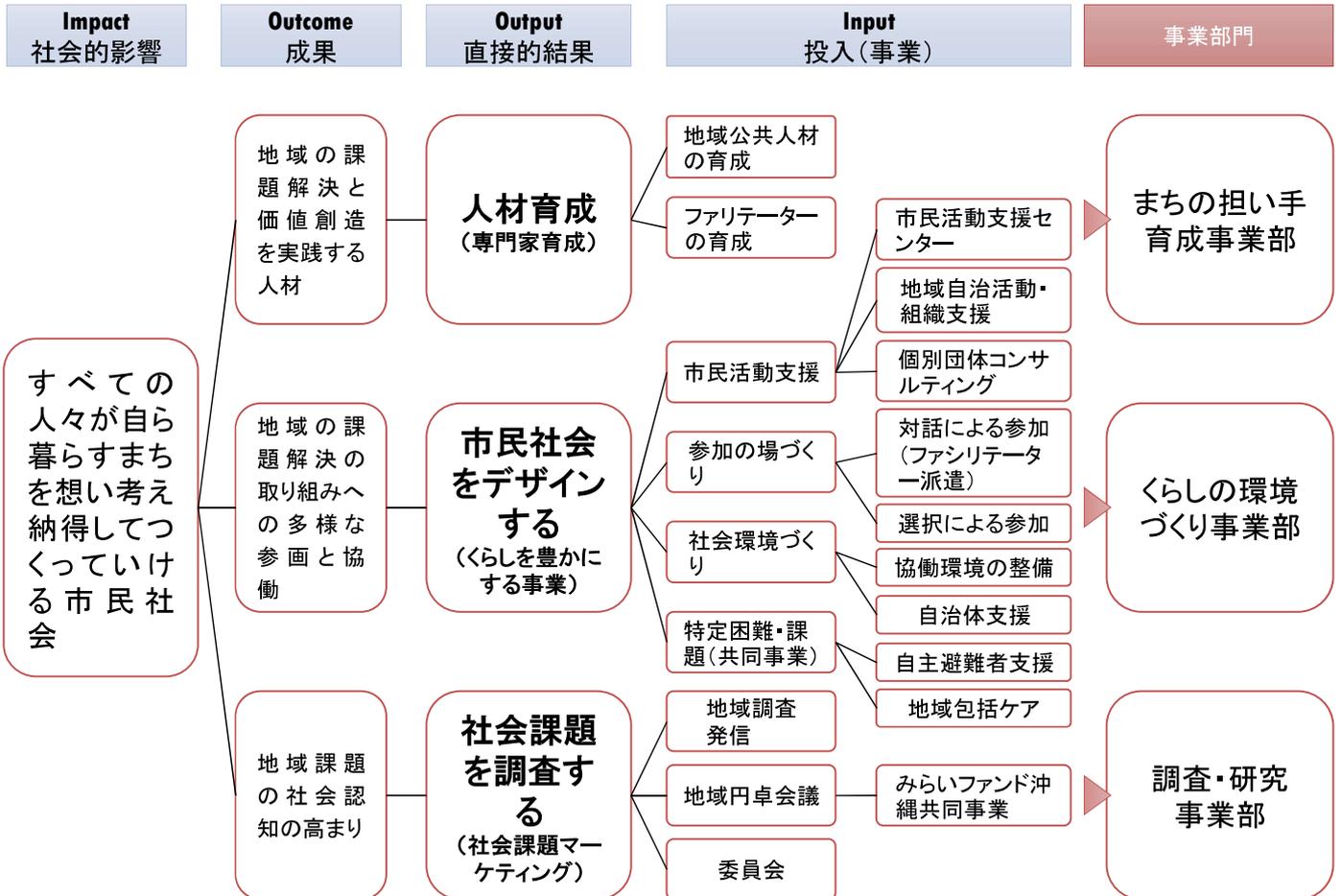
○市民公益活動を行う団体の活動サポートと市民社会のインフラ整備

○参加型の場づくりの企画運営と人材育成

○地域のNPOモデルとなるような継続的な市民活動の組織運営



事業部門の見直し



2015年度事業ハイライト

・糸満市市民活動支援センターの運営6年目

- 7月、ふくらしや館移転オープン
- 「第23回糸満市健康福祉まつりwith糸満まちづくりカフェ2016」を開催。60ブースが出展。来場者約2,000名

・沖縄地域社会ビジョン大学院第5期を終え、修了生が73名へ

- 2015年9月10日～11月14日の10週間で開催。
- 14講座、5ゼミ、チームで企画提案(中間発表・最終発表)を実施。
- 受講料(全課程40,000円、トライアル20,000円)での自主運営。
- 受講生18名(全課程12名、トライアル6名)
- 第5期修了生12名

・ファシリテーター養成の主催講座を開催、19名が参加

- 2015年10月2日(金)「ファシリテーションを実践につなげる“1スキル深掘り”講座 現場で使える、議論を深める「問いかけ」」、
- 参加者19名、講師:川中大輔氏

・県外自主避難者等への情報支援事業

- 復興庁事業。委託元:三菱総合研究所。
- 「福島避難者のつどい 沖縄じゃんがら会」との協働事業。
- 福島からの沖縄への自主避難者へニュースレターの送付、説明会交流会の開催(開催場所:那覇市、うるま市、宮古島市)。

・新たな地域社会を創造する「未来叶い(ミライカナイ)」プロジェクト

- 文部科学省補助事業「地(知)の拠点大学による地方創生事業」
- 委託元:琉球大学、名城大学
- (公財)みらいファド沖縄との協働。
- 県内5ヶ所で地域円卓会議「県内島嶼地域と本島北部地域5ヶ所における若者の定住と働き方を考える」を運営(大宜味村、国頭村、久米島、石垣島、宮古島)。



第23回糸満市健康福祉まつりwith糸満まちづくりカフェ2016



ファシリテーション養成講座

5

2015 Special Thanks

□ 沖縄地域社会ビジョン大学院2016受講学生割インターン、協力

- 宮城千恵子、我那覇百合香、永井作美、玉那覇巨、天久ヒルトップ
- 寄付をいただいた講師の皆さま

□ 事業ボランティア

- 平中晴朗、屋良朝之

□ 糸満市市民活動支援センターボランティア・職場体験

- 呉屋真心(市民提案型審査会)、沖縄尚学高校16名、スペースキッズ沖縄3名、要約筆記サークルいちまんかたつむりの会2名、喜多通夫、金城悟、照屋きよ、上原成未、慶麻紀子、新垣仁美、玉城聡、南部病院、糸満漁民食堂(まちカフェ)、上原徳蔵(拠点整備)

6

市民社会を実現する まちの担い手育成事業部

市民がまちの担い手として活躍する市民社会の実現に向けて、地域の課題解決と価値創造を実践し、多種多様なまちの主体をつなぐことのできる人材の育成。

●事業部方針（2015年度）

- ① 沖縄における地域公共人材の育成。（2011年度～）
- ② 市民ファシリテーターの育成。（2004年度～）
- ③ 専門職へのファシリテーション技術研修の開発。（2014年度～）



沖縄地域社会ビジョン大学院2015

2015 (H27) 年度

方針番号	事業名	実施時期	事業の概要と事務局所感	費用年額 (単位:千円)
①	沖縄地域社会 ビジョン大学院2015	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・8/8(土)公開講座「長野県上田市にある、若者の自立を支援している日本一小さな学校サムガクの挑戦」、講師:長岡秀貴氏、参加者34名 ・9/10～11/14ビジョン大学院2016開校。受講生18名(全課程12名、トライアル6名) 	567
①	主催講座	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・1/14「社会と未来をデザインする「ソシオマネジメント」<社会に挑む5つの原則>を読み解く 勉強会」、講師:川北秀人氏、参加者23名 	58
②	主催講座	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・10/2「ファシリテーションを実践につなげる“1スキル深掘り”講座現場で使える、議論を深める「問いかけ」」、講師:川中大輔氏、参加者19名 	48
②	講師・ファシリ派遣	通年 (年間の 合計件数 は別紙参 照)	<ul style="list-style-type: none"> ・沖大、JICA沖縄連携講座「沖縄発国際協力実践入門」講師 ・沖縄市子ども議会運営業務研修会 講師 ・嘉手納高校話し合いワークショップ 講師 ・県内企業雇用環境改善支援事業「人材育成推進者養成講座」講師 ・公共施設(東京)スタディーツアーコーディネート ・繁多川公民館10周年イベント板書記録派遣 ・地域キャリア教育支援協議会設置促進事業有識者会議ファシリテーション等 	1,399
②	委員派遣	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・うるま市地域活動助成事業選考委員 ・糸満市社会福祉協議会評議員 ・宜野湾市市民協働推進協議会 ・沖縄県ボランティア・市民活動支援センター運営委員 ・那覇市中心市街地活性化委員会 	58
③	講師・ファシリ派遣 (専門職)	通年 (年間の 合計件数 は別紙参 照)	<ul style="list-style-type: none"> ・国建職員研修「参加の場づくりのためのファシリテーション基礎」講師 ・ケアマネのための会議づくり 講師(地域包括支援センター松川) ・介護支援専門員合同研修会 講師(那覇市・豊見城市) ・中堅民生員、児童委員研修 講師 ・沖縄らしい風景づくりに係る人材育成事業地域リーダー講習会(沖縄県建築士会) 	
③	コンサル・相談	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・県内NPOコンサル 	80

① 沖縄における地域公共人材の育成。(2011年度～)

＜沖縄地域社会ビジョン大学院＞

- ・受講生目標25名未達成。100万の予算は未達。講師とOBOGによる運営協議会設置。
- ・「円卓会議」で顕在化した沖縄の社会課題に対して、ビジョン大学院の人材をつなげることにチャレンジしたい。論点提供者や課題解決に関するアイデアを出すチームのメンバーにつなげたい。
- ・沖縄の社会課題に取り組み、地域への眼差しを持ち、志を持った人が集まる場として重要である。
- ・沖縄の未来像に対してどうインパクトを残すのかについて学ぶコースもあってよい。企画だけでなく、事業の評価やインパクトを生み出すノウハウを学ぶ場として提供してもよい。

- ・イベントの多い秋口から開催時期を早め、6月末から8月の開催とし、新規層が参加しやすい時期設定とする。
- ・昨年同様ちらしを作成する。
- ・現プログラムはエントリーコースとして、成果を出し事業をまわすソーシャルインパクトコース(仮称)の開設も年度後半に検討する。合わせてカリキュラムの見直しも行う。
- ・修了生が企画提案できる場「マッチングカフェ」の継続開催。
- ・ソーシャルインパクトコース(仮称)では、受講生が円卓会議を開催する形にする。問題にきついたら円卓会議開き、ステークホルダーを見える化していく。

② 市民ファシリテーターの育成。(2004年度～)

- ・嘉手納高校から初の高校からの依頼を受けた。
- ・沖縄市での子ども議会(中学生)の議員研修とサポーター研修やJACAの海外研修員研修は複数年の継続案件となっている。
- ・沖縄人財クラスタ研究会を通じて、県内企業従業員向けのファシリテーション研修を実施。企業向けの研修会は初となった。

- ・引き続き、中学生、高校生、大学生など世代を広げていく。
- ・企業セクターへの展開も継続して行う。

③ 専門職へのファシリテーション技術研修の開発。(2014年度～)

- ・都市計画、建築などコンサルへのアプローチから国建のファシリ研修を行った。設計事務所や都市計画コンサルタントに対する参加の場づくりのスキルアップについてのニーズは高まっている。
- ・ケアマネや地域包括ケアなど地域福祉分野においても参加の場づくりの技術に対するニーズは高まっている。
- ・現状は会議の進め方の基本を伝えているが、それぞれの会議の現場(ケース会議等)の話聞かせてもらうなど現場に応じた提供プログラムがより求められる。
- ・対象として、行政の地域担当者も含まれる。その中では、進行役ではない立場から対話の場へ関与するサブファシリやファシグラ養成のほうが地域へ貢献できるケースもある。参加者のファシリテーションシップの向上(促進的参加者)。

- ・新人研修のメニュー展開。
- ・地域福祉の担い手(官民とも)への単発ではない継続的な育成メニューの展開。



沖縄地域社会ビジョン大学院2015



沖縄市子ども議会研修



「社会と未来をデザインする「ソシオマネジメント」勉強会



ファシリテーションを実践につなげる「1スキル深堀り」講座現場で使える、議論を深める「問いかけ」

市民社会をデザインする

くらしの環境づくり事業部

市民の力で自ら暮らすまちをつくる事業部。

●事業部方針（2015年度）

- ①「くらし」を支える市民の活動を一緒につくる（2008年度～）
- ②多様な市民が連携して「くらし」をつくるための参加の場づくり（2004年度～）
- ③市民社会を支える制度やしきみづくり（2008年度～）
- ④特定の社会課題の解決に取り組む「共同事業」（2004年度～）



曙小学校区まちづくり協議会ワークショップ

方針番号	事業名	実施時期	事業の概要と事務局所感	費用年額 (単位:千円)
①	糸満市市民活動支援センター	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・7/16ふくらしや館移転オープン。来所者数1.2倍 ・まちづくり活動に関する相談業務(462件) ・市民提案型まちづくり事業の企画推進(10万円コース1.75倍、30万コース4倍) ・市民活動講座の開催。6/6補助金申請書(講師:宮道)30名、8/1会計(講師:緑間税理士)41名参加 ・テーマ型座談会の開催。1/20地域活動と継承(情報提供:新田氏)25名、3/25補助金制度7名参加 ・糸満まちづくりカフェの開催。健康福祉まつり合同開催、60ブース、約2000名来場、ボランティア27名参加、寄付額(まちけつと等)50416円 ・農村地域再生発見事業の事務局。大里もりあげ隊結成月1定例会、10/18・11/15こども達はインタビュアー、11/21-22地域行事写真展、2/21ふるさと百選受賞報告会開催(吉本氏招聘)、協力隊任期終了(北村氏) ・広報紙やWebで活動団体の情報発信。広報紙全4号発行、ブログ全378記事、Facebook91いいね!、市民活動便利帳いとまんページHP制作開始 ・視察等受け入れ。県外市議会2自治体、市外機関3団体、職場体験受入2名 	8,396
①	曙小学校地区まちづくり協議会	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会(1回/月)参加 ・「会をよりスムーズに行うためのワークショップ(全2回)」運営 第1回:7/23(木)、第2回:8/20(木) 	200 (寄付金)
②	ワークショップ運営	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄軌道県民会議(全2回) ・豊見城市新庁舎建設基本・実施計画業務市民ワークショップ(全2回) ・南城市新庁舎協働スペースワークショップ(全5回) ・沖縄食文化の魅力味わい事業調理ワークショップ・円卓会議 ・専門高等普通教室ネットワーク構築業務教材シナリオづくりワークショップ 	2,978
④	県内自主避難者等への情報支援事業	通年	<p>福島県からの避難者へ情報支援(ニュースレター発送3回、説明会・交流会開催(3回:那覇市・うるま市・宮古島市)、相談窓口)</p> <p>委託元:三菱総合研究所、事業共同団体:福島避難者のつどい沖縄じゃんがら会</p>	5,665
④	マチグワー楽会	1回	<p>日時:2016年2月20日(土)・21日(日)、会場:第一牧志公設市場2階・なは商人塾、テーマ「公設市場の過去と未来をつなぐ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座談会「公設市場、40年前の選択」 ・座談会&交流会(ぐるぐる模合)「公設市場、今そこにある危機~そして、未来へ~」 ・まちあるき「小さなお店探検隊!再び!2016」 ・座談会「行商・屋台・小商いからマチグワーを考える」 	-

①「暮らしを支える市民の活動を一緒につくる(2008年度～)

<糸満市市民活動センター>
 ・5年目となり、糸満市の中でも市民活動の窓口として認知されるようになってきた。社協、行政、警察等と相談のネットワークが構築されており、相談を抱え込むことなく丁寧につなぐことができている。

<曙小学校まちづくり協議会>
 ・沖縄労金の寄付を活用し事業計画のWSを実施した。協議会運営については、話し合いの成果を活かし、より活性化するための取り組みが必要である。

<糸セン>
 ・地域支援(地域組織の支援)の方向性を決める。
 ・事業が増えてきており、事業の優先順位をつける。
 ・センター長を宮道から上原へ引継ぎ。支える体制が必要。

<まち協>
 ・役場の地域担当者やPTA事務にサブファシリトレーニングの展開を検討。公民館連携を進めることを検討。
 ・曙小だけでなく、那覇市の小学校区まち協では板書ファシリテーションのトレーニングメニューの展開を検討。

②多様な市民が連携して「暮らしをつくるための参加の場づくり(2004年度～)

・95件、2,246人に対して、ワークショップ、ファシリテーションの研修を実施した。
 ・依頼先は、行政40件 NPO23件、社協・福祉16件、大学9件、地域組織4件、企業2件となった。

・

③市民社会を支える制度やしきみづくり(2008年度～)

・宜野湾市の協働の委員会メンバーの一員として参画

・策定された協働指針、協働推進計画の実働に貢献していく。

④特定の社会課題の解決に取り組む「共同事業」(2004年度～)

<自主避難者支援>
 ・「福島避難者のつどい沖縄じゃんがら会」との共同事業として実施。

<マチグワー楽会>
 ・運営委員会を中心に自立した運営がなされており、毎年新しいメンバー入ってきている。
 ・公設市場の建替えの検討のための歴史資料の取りまとめを行った。

<自主避難者支援>
 ・みなし住宅支援の期限が切れる2016年度が重要な機関となるため、継続した支援が必要となる。

<マチグワー楽会>
 ・地域の人が発表する機会があると、ソーシャルキャピタルの形成につながる。



糸満市市民活動支援センター 農村地域再生発見事業



糸満市市民提案型まちづくり事業補助金 公開プレゼンテーション



那覇市曙小学校地区まちづくり協議会 会をよりスムーズに行うためのワークショップ(全2回)



南城市新庁舎協働スペースワークショップ(全5回)

社会課題を調査する

調査・研究事業部

市民目線での地域課題の調査・研究。

●事業部門方針（2015年度）

- ①市民による地域情報の調査・発信（2004年度～）
- ②地域の「困り事」を社会課題として共有する地域円卓会議（2010年度～）
- ③地域の課題解決・価値創造のための「技術」の普及・啓発（ブックレット）（2015年度～）



2015（H27）年度

方針 番号	事業名	実施 期	事業の概要と事務局所感	費用年額 (単位:千円)
①	地域情報誌「み～きゆるきゆる」	通年	・Vol.8(特集:ユッカヌヒー)未発行。	-
②	地域円卓会議運営	11回	<ul style="list-style-type: none"> ・7/31 那覇市久茂地小学校跡のまちづくりを考える(那覇市議員) ・10/23 沖縄まちと子ども基金(児童養護施設) ・10/24 沖縄まちと子ども基金(生活困窮者・不登校) ・11/28 障がい者のITスキル獲得と企業連携を考える ・1/21 教育の情報化をテーマとした円卓会議(沖縄県教育委員会) ・2/1 県内の離島と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える@大宜味村(琉球大学・名桜大学) ・2/6 沖縄の食文化継承に向けた円卓会議(沖縄県) ・2/24 県内の離島と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える@国頭村(琉球大学・名桜大学) ・3/3 県内の離島と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える@久米島(琉球大学・名桜大学) ・3/10 県内の離島と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える@大宜味村(琉球大学・名桜大学) ・3/11 県内の離島と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える@大宜味村(琉球大学・名桜大学) 	3,319
③	テキスト・ブックレット	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーション基礎とファシリテーショングラフィック基礎のテキストを作成 ・沖縄地域社会ビジョン大学院2014公開講座の内容ブックレット未発行 ・マチグワー闘争史(仮称)マチグワー楽会の小松かおりさん、新さん、秋山さんが中心メンバーとなり、8月・11月に市場関係者へインタビュー実施 	-

①市民による地域情報の調査・発信（2004年度～）

地域情報誌み～きゆるきゆる(ユッカヌヒー号)未発行。

・今ある原稿(18ページ程度)で発行する。2016年度上期に発行。

②地域の「困り事」を社会課題として共有する地域円卓会議（2010年度～）

＜地域円卓会議＞

・みらいファンド沖縄と共同で開催し、6年目。2015年度は、11回開催し、依頼者も大学、行政、議員など多様になった。また、開催地域については、琉球大学、名桜大学COC+から円卓会議の開催依頼があったため、県内北部(大宜味村、国頭村)島嶼地域(久米島、宮古島、石垣島)へと広がった。
・パッケージとして固まっているのでオファーある。事業をスタートさせるチェックインの機能として円卓会議が受け入れられている。

・円卓会議テキストの第二版について、琉球大学と取り組む。
・円卓会議後のアクションチームをつくり事業を実施していく取り組みをCOC+事業で展開する。
・「円卓会議から見えてきた、沖縄の地域課題」について、未来ファンド沖縄HPの再構築に合わせて、報告会を開催することを検討する。

③地域の課題解決・価値創造のための「技術」の普及・啓発（ブックレット）（2015年度～）

・研修で使っている資料はあるが、2015年度はできなかった。

・専門職向けのファシリテーション研修で使えるテキストを作る。
・「都市のコミュニティ・地域のコミュニティの今後のあり方」を研究テーマとして、ゲスト招き勉強会を開催。糸満市や宜野湾市COC+で回った離島のベースに議論し、提案をまとめる。ろうきんからの寄付金をあてる。



那覇市久茂地小学校跡のまちづくりを考える地域円卓会議



沖縄まちと子ども基金(生活困窮者・不登校)地域円卓会議



県内島嶼地域と本島北部地域5ヶ所における若者の定住と働き方を考える地域円卓会議



教育の情報化をテーマとした地域円卓会議

総務部

法人の円滑な運営。

●事業部方針（2015年度）

- ①月次会計チェックによる四半期収支黒字化（4-6月の収支赤字の解消）
- ②累積赤字の解消に取り組む
- ③会計業務の引継ぎ準備。視野に入れたマニュアル作成。
- ④内部の人材育成。新たに必要なスキルを向上させる機会。新スタッフの基礎スキル向上のための機会・プログラムづくり。
- ⑤ホームページのアクセシビリティの向上。サービス内容や料金等提供する情報のリニューアル
日常の活動の定期的な発信。文字の大きさの選択等デザインを含めたアクセシビリティの向上



2015年度通常社員総会

ふりかえり

月次管理に取り組み、累積赤字が削減

・毎月の理事ミーティングで月次会計を確認。前年度に比べ、年度初めの4月6月の収支赤字幅が小さくなった。7月以降の月次は黒字となった。その結果、累積赤字を大幅に削減することができた。

銀行からの借り入れ

・委託者からの委託事業費の支払いまでのつなぎ資金として、銀行より借入を行った。2016年4月に滞りなく返済。

新スタッフの基礎スキル向上のための機会・プログラムづくり

・沖縄地域社会ビジョン大学院やファシリテーション講座等の学びの機会へのスタッフ参加。

ホームページのアクセシビリティの向上

・サービス内容や料金等の表示を改善。文字の大きさの選択等デザインを含めたアクセシビリティの向上はできていない。
・facebookやブログでの情報更新のルールが定まっていない。

理事によるスタッフ面談の実施

理事・会員とともに2015年度事業振り返りと次年度事業に向けてのミーティングを開催

会計業務のマニュアル作成中

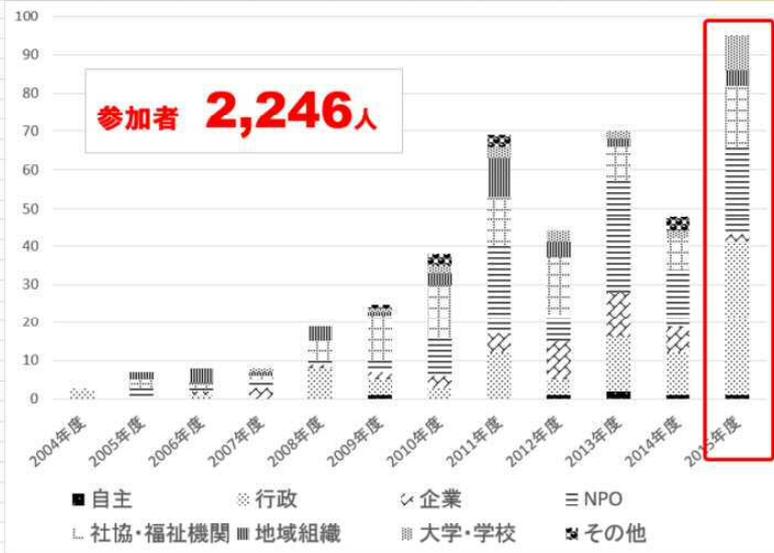
申し送り

- ・月次会計の管理は継続し、毎月の理事会でチェックしていく。
- ・四半期ベースでの黒字化を目指し、運営を行う。
- ・会計業務の引き継ぎ体制を整備。
- ・スタッフ全体の育成について、プログラム開発を行う。
- ・WEBのアクセシビリティの向上と情報発信のルール整備を行う。
- ・理事と会員でのまちわく事業展開を検討する場の開催。

ファシリテーター派遣の経年実績 (講師・ファシリ・委員・その他)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
自主	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	1
行政	2	0	1	0	8	4	3	12	4	14	11	40
企業	0	0	1	3	1	2	3	5	10	12	7	2
NPO	0	3	1	2	1	3	10	23	7	29	15	23
社協・福祉	1	2	1	1	5	12	14	13	15	9	8	16
地域組織	0	2	4	1	4	1	3	10	4	2	0	4
大学・学校	0	0	0	1	0	1	2	3	3	2	2	9
その他	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	4	0
合計	3	7	8	8	19	25	38	69	44	70	48	95

単位：件



21

2015年度 組織運営

- 会員
 - 正会員20名／賛助会員4名
- 通常総会の開催
 - 2015年5月15日(金) 19時30分より21時30分
- 決算理事会の開催
 - 決算理事会 2015年5月1日(金) 19時00分より21時00分、2日(土) 10時00分より15時00分
- 理事会の開催
 - まちなか研究所わくわくの運営に関して月1回理事による運営会議を開催。必要に応じて、理事会を開催
- 加盟組織
 - 曙小学校区まちづくり協議会 (構成団体)
 - 小規模多機能自治推進ネットワーク会議
- 関連団体
 - 公益財団法人みらいファンド沖縄
 - マチグワ楽会
 - 株式会社フューチャーワークス
 - コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do

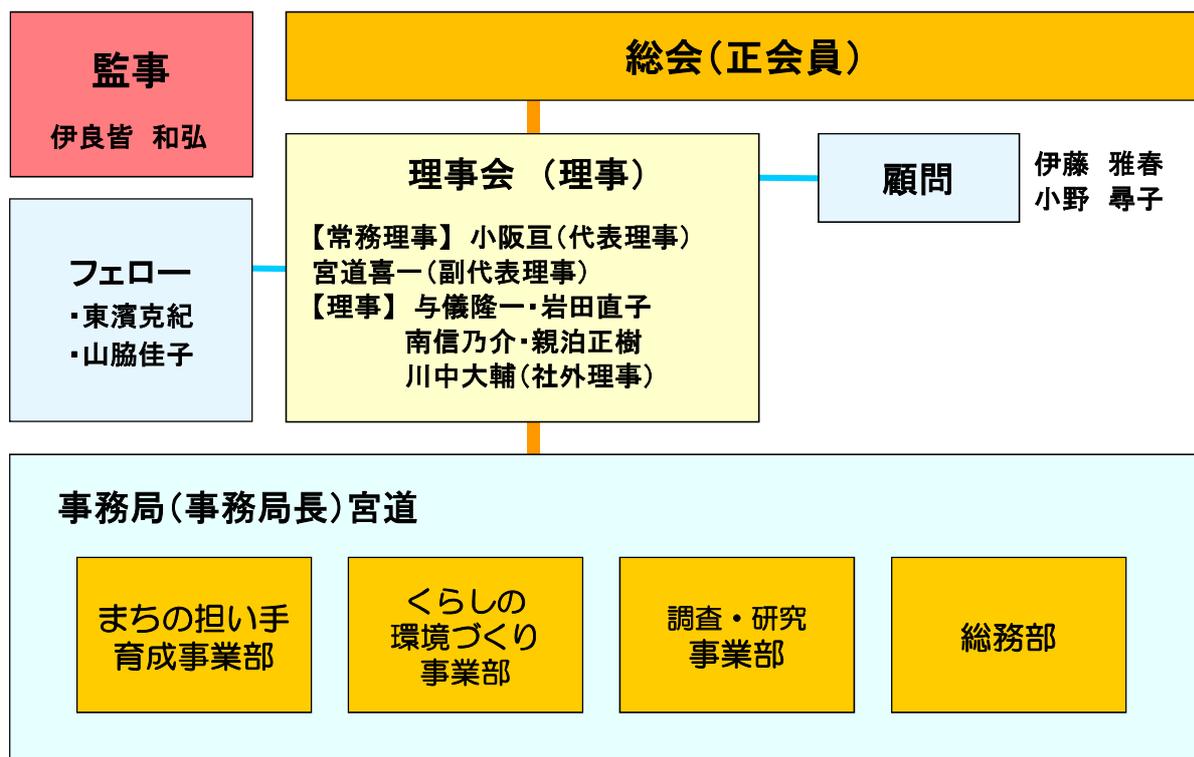
22

2015年度 事務局体制

- 事務局長（宮道喜一）
- 平均勤続年数（常勤スタッフ）
 - 6年／人
- まちの担い手育成事業部
 - 常勤：宮道、小阪、下地
- くらしの環境づくり事業部
 - 常勤：宮道、小阪、下地、上原（糸満専従）、川崎（糸満専従）
 - 非常勤：櫻井野亜（沖縄じゃんがら会）、原ちひろ（沖縄じゃんがら会）
 - アルバイト：親泊正樹、関根美智子（沖縄じゃんがら会）、櫻井哲也（沖縄じゃんがら会）、鎌田昭三（沖縄じゃんがら会）、福地佐一（沖縄じゃんがら会）
 - ボランティア：31名（糸満市市民活動支援センター）
- 調査・研究事業部
 - 常勤：小阪、宮道、下地
 - アルバイト：親泊正樹、上原崇利
 - ボランティア：平中晴朗
- 職員が外部委員・役職を務める団体
 - 小阪亘
 - NPO法人一万人井戸端会議 理事
 - 株式会社オフィスハート 役員
 - 宮道喜一
 - NPO法人ハンディサポートふれんど 理事
- 総務・経理部
 - 常勤：宮道、下地

23

2015年度 体制



24



特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく 2015年度（平成27年度）事業報告書

〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋1-7-5 民衆ビル4F

TEL & FAX: 098-861-1469

Email: office@machiwaku.com

<http://www.machiwaku.com/>